

季刊

医大

おらんくの大学病院

[高知大学医学部附属病院]

[Vol.4]

2019年  12月20日

発行



特集 Interview
Pelvic Floor Center

“おらんく”の大学病院が誇る!!

骨盤機能センターの
症状別に細分化された
診療のすごさ!

Topics 子どものこころ診療部について
高橋 秀俊

●おらんくの食事
栄養管理部から「冬」のおすすめ料理

●医大のスタッフ PETセンター

冬のイベント案内 

おらんくんの大学病院が誇る!! 骨盤機能センターの 症状別に細分化された 診療のすごさ!

尿失禁、便失禁などの排泄障害や

骨盤内の臓器下垂により

体外に露出してしまふ骨盤臓器脱。

これらの病気に対する認識が大きく変わる

高知大学医学部附属病院の

画期的な取り組みを、

それぞれの担当医師に聞きました。



Inoue Keiji

Mimura Toshiki

Maeda Nagamasa

◆尿失禁(尿もれ)
センター長
井上啓史

プロフィール
平成元年 高知医科大学医学部卒業
平成6年 高知医科大学大学院卒業・医学博士
平成8年 高知医科大学泌尿器科 助手
平成9年 テキサス州立大学MDアンダーソン癌センター 癌生物学リサーチフェロー
平成14年 高知医科大学泌尿器科 講師
平成17年 高知大学医学部泌尿器科学講座 助教授(准教授)
平成25年 東京工業大学 非常勤講師(兼任) 骨盤機能センター 部長(兼任)
平成28年 高知大学医学部泌尿器科学講座 教授 現職 高知大学医学部附属病院透析部 部長(兼務) 千葉大学フロンティア医工学センター 特別研究教授(兼任)
平成29年 高知大学医学部附属病院 光線医療センター 副センター長(兼務) 現在に至る

骨盤機能センターは、何を目的にいつ開設しましたか。

当センターは、骨盤内(下腹部)の臓器である直腸、膀胱、子宮、骨盤底の筋肉、尿道、肛門括約筋などの機能異常から生じる病気を診察する専門施設として、味村先生がセンター長となり、2008(平成20)年8月に国立大学病院初の開設となりました。症状としては、尿失禁や便失禁などの排泄障害、あるいは子宮、膀胱、直腸などの骨盤臓器脱などがそうです。当センターでは、便失禁(便もれ)や便秘、直腸脱といった大腸や肛門に関連した排便障害などの病状は消化器外科医が、また、尿失禁(尿もれ)などは泌尿器科医が、さらに膀胱脱、膣脱、子宮脱など女性特有の骨盤臓器脱の病状は婦人科医というように、各病状によって、専門医が担当しています。

尿失禁(尿もれ)などは、テレビでも頻繁に耳にしますね。

ええ。実際とても多いのです。尿失禁とは自分の意思とは関係なく尿がもれてしまうことと定義されていて、くしゃみなどお腹に力が入った時にもれるのもそうですね。40歳以上の女性では4割以上の方が経験しているにもかかわらず、年齢のせいと諦めたり、恥かしいといって我慢している方も本当に多いのです。ですから、尿もれが気になって今までしていたスポーツをやめたり、子どもや孫を抱くのをためらったり。中には思いっきり笑うのも心配という方もおられますが、どうぞ恥かかみならずセンターにご相談ください。こちらでは、分かりやすい市民公開講座などの啓発活動も、積極的にを行っています。

多くの女性が抱えている悩みだったんですね。実は私も(笑)。何だか気が楽になりました。

そうですね(笑)。排泄障害や骨盤臓器脱などは、直接生命に関わるものではありませんが、日常の生活の質を大きく損な

うものです。当センターでは、患者さん一人ひとりの原因に応じた治療をそれぞれ専門の医師が適切に行うことで、皆さんの毎日を元気で明るいものにしていきたくと思っています。

◆便失禁(便もれ)
味村俊樹

プロフィール
昭和63年 東京大学卒業後、東京大学第3外科入局
平成10年 英国St Mark's Hospital, Physiology Unit, Research Fellow(3年間)
平成14年 帝京大学 大腸肛門外科 講師
平成20年 高知大学医学部附属病院 骨盤機能センター センター長・特任教授
平成25年 二慶会 指扇病院 副院長・排便機能センター長
平成30年 自治医科大学 医療の質向上・安全推進センター質向上・臨床倫理部門 教授 消化器一般移植外科教授 現在に至る

開設時のセンター長であった味村先生は、便失禁を担当されているのですね。

はい、そうです。便失禁患者さんの約8割は、羞恥心のためや、どの病院を受診すれば良いか分からないために悩みを抱えたままです。一方、2割の方が受診した場合でも、医師自身がどのように診察してよいか分からなかったりもします。それは医学部で、「便失禁」がきちんと教育されていないことも原因です。そういった中で、日本初となる当院の骨盤機能センター開設は画期的でしたし、ずっと病院を探していた患者さんには嬉しいニュースだったと思います。

便失禁担当の先生方の仕事内容について教えてください。

私と副センター長の駄場中 研先生、そして皮膚・排泄ケア認定看護師の小笠原美穂さんが協力して、排便障害の患者さんを専門的に診察しています。

また第1、第3金曜日に行っている便失禁外来では、主に便失禁の患者さんの診察を行い、必要に応じてバイオフィードバック療法を用いて骨盤底筋収縮訓練も指導しています。

「便失禁」で病院を受診することへのためらいは、やはり根強く残っているのでしょうか。

実は、2014年に便失禁に対して仙骨神経刺激療法が保険収載され、2017年に便失禁診療ガイドラインが発行されて以来、便失禁が新聞、雑誌、テレビなどのマスコミで多く取り上げられたり、学会で発表されたりと、社会に広く浸透してきました。便失禁で当センターを受診する方は70~80代の高齢女性が

多いのですが、直腸がん術後の男性や経産分娩後の若い女性も受診されています。このセンターを受診される約7割の方では、便失禁が改善・治癒しているんですよ。

日本には便失禁の悩みをもつ患者さんが実に500万人以上もいて、決して珍しい症状ではありません。治療法も食事・生活・排便習慣指導、内服薬などの初期から専門的なもの、また括約筋形成術まで多数ありますので、お気軽にご相談ください。

◆骨盤子宮脱
前田長正

プロフィール
昭和60年 高知医科大学医学部卒業
昭和60年 高知医科大学医学部産科婦人科学教室入局
平成2年 高知医科大学医学部附属病 助手
平成9年 高知医科大学医学部附属病院 講師
平成19年 高知大学医学部産科婦人科学講座 准教授
平成24年 高知大学医学部先端医療学推進センター再生部門膣帯血研究班長
平成26年 高知大学医学部産科婦人科学講座 教授 現在に至る

前田先生のご専門・ご担当について教えてください。

私は婦人科の専門であることから骨盤臓器脱、主に骨盤子宮脱の患者さんの診断、程度、手術適応等を決定しています。全ての方が手術が必要というわけではなく、合併症や年齢に応じてベッサリーを用いた保存治療も行っています。保存治療で症状の改善がなかったり、またベッサリーに不具合がある場合には手術療法の選択となりますが、膀胱機能障害等があったり腹腔鏡下手術の適応となる場合には、泌尿器科と連携を取りながら治療を進めます。

病状や治療内容は、どういったものでしょう。

骨盤臓器脱は出産経験のある高齢の女性に多く、子宮・膀胱・直腸が膣内を下垂し、脱出してくる疾患です。子宮を支えている靭帯や筋肉が少しずつ緩んできて、放っておくと排尿排便障害なども出てきます。

患者さんには、恥かしさとか社会生活に不便が生じたりなど誰にも相談できず長い間一人で悩むケースも多く見られます。しかしこれらの90%以上の方は、手術やベッサリーによって治癒、改善しておられますし、元の日常生活に戻られています。

当センターでは、これらの悩みを抱えた女性の一日も早いQOLの改善と健やかな老後生活のサポートを目指していますので、症状でお困りの方や“もしかして?”と心当たりのある方は、是非受診されることをおすすめします。

子どものこころ診療部について

高橋 秀俊

発達障害や児童虐待、不登校など、子どものこころの問題への対応の重要性がますます高まっています。また、災害時のこころのケアをスムーズに行うためには平時の対応がしっかりできていなければなりません。そのため、高知県内で子どものこころ診療体制を整備することは、次の時代の地域を支えるために最も重要な課題の一つです。

高知大学医学部附属病院の子どものこころ診療部では、18歳以下の子どものこころの問題に幅広く取り組んでいます。発達段階に応じて認められる子どものこころの問題は多岐にわたります。受診されたお子様の状態を把握するため、心理検査・発達検査・脳波検査・頭部画像検査・心電図・血液検査・尿検査などの検査を必要に応じて行います。そのうえで、院内の精神科や小児科、他の医療機関、教育

や福祉など多領域と必要な連携をとり、生活環境の調整や心理教育など心理社会的な支援を行います。お子様の状態によっては、必要最低限の薬物療法を行う場合もあります。



発達障害や児童青年期にみられる様々なこころの問題について、必要に応じて院内の精神科や小児科、他の医療機関、教育や福祉など多領域と連携し、ライフステージに応じた包括的な診療を行います。そして、2019年度に高知県からの寄附により開設された高知大学医学部寄附講座児童青年期精神医学と共同で、県内の子どものこころの診療の専門家を育成したり、子どものこころの医療の質の向上につながる研究にもかかわります。高知県で安心して子育てができる環境の整備に貢献します。



子どものこころ診療部で対応する症状

- 落ち着きがない、集中力が続かない
- 指示の理解がよくない
- 友達関係がうまくいかない、集団行動がうまくとれない
- こだわりが強い
- 学習のつまずきや遅れ、字が汚い、不器用、運動が極端に苦手
- 気分が落ち込む、学校へ行けない
- 怒りっぽくなった
- チックがある
- 頭痛、腹痛、吐き気をよく訴える
- 睡眠の問題：朝起きられない、昼夜逆転している
- 人混みが苦手



外来診療

火曜日と木曜日の午後

原則予約制。
初診の方は紹介状が必要。
予約は4週間前から受付。
受診を希望される方やご家族は、かかりつけ医などに相談ください。



クリスマスシーズンにぴったり!

アボカドの ご馳走グラタン

聖夜を彩るこんがりグラタンは
カラフルな食材と食感が魅力!

【材 料】(1人分)

マカロニ……………15g	玉葱……………70g
アボカド……………80g	マッシュルーム…10g
粉チーズ……………2g	アスパラ……………30g
(A) マヨネーズ……………4g	無頭エビ……………50g
顆粒コンソメ……………3g	小麦粉……………10g
こしょう……………少々	チーズ……………20g
牛乳……………120ml	パセリ(乾燥可)…少々
バター……………4g	

【作り方】

- ① マカロニを表示時間より1～2分短くゆでる。
- ② 玉葱は薄切りにし、アボカドの皮をむく。
- ③ ボールで(A)の材料をよく潰し、ペースト状にする。(ミキサーを使ってもOK)
- ④ ③に牛乳を加え、よく混ぜて液状にする。
- ⑤ フライパンにバターを入れ、中火で溶かす。玉葱を入れて炒め、しんなりとしてきたらアスパラ、マッシュルーム、エビを加えて炒める。
- ⑥ 全体に火が通ったら小麦粉を加え、粉っぽさがなくなるまでよく混ぜて炒める。
- ⑦ ④を加え、とろみがつくまで混ぜながら5分ほど煮込む。
- ⑧ ①のマカロニを投入し、軽くからめて火を通す。
- ⑨ 耐熱のグラタン皿に⑧を敷き詰め、チーズをのせてオーブントースターでチーズに焦げ目がつくまで8分ほど焼く。
- ⑩ 焼き上がりにパセリをかけたら出来上がり。



栄養量 (1個当たり)	エネルギー	541kcal	ビタミンE	6.8mg
	たんぱく質	25.9g	カリウム	1272mg
	脂 質	32.5g	塩 分	2.5g
	炭水化物	39.2g	食物繊維	7.1g
	マグネシウム	81.1mg		

私達が担当しました



一 言 M E M O

アボカドは野菜ではなく果物の一種ですが、その栄養はトップクラス。そのすごさは「世界一栄養価が高い」果物として、ギネスに認定されるほどで、ビタミンEを筆頭としたビタミン類やカリウム、マグネシウムなどのミネラル類を多く含むアボカドは、食物繊維も豊富です。

果物、野菜類の中でも圧倒的に脂質が多いのですが、不飽和脂肪酸を多く含み、栄養補給・強壮、健康維持に有用です。

また、ダイエット・美肌・動脈硬化予防などに幅広い効果があるとされる優れた果物です。

左)管理栄養士/政岡 紗矢香 右)管理栄養士/鎌田 三砂子

中央診療施設
Central Clinical Facilities

PETセンター

Positron Emission Tomography Center

センター長
村田 和子
むらた よりこ



PETセンターは、通常の核医学検査、PET/CT 検査、及び放射性同位元素を用いる治療を行っています。2006年4月、本県で初めてのPET/CT 導入時に開設されました。

当センターでは、医師、診療放射線技師、看護師、サイクロトロンオペレーター、薬剤師、事務スタッフが連携を取り、患者さんの安全な検査及び正確な診断に努めています。

■PETセンターが行う核医学検査・治療

通常の核医学検査(脳・心臓・内分泌・肝臓・腎臓・骨・腫瘍・炎症)、PET/CT、及び放射性同位元素を用いる治療(甲状腺・前立腺・リンパ腫)を実施しています。

核医学検査・治療は放射性同位元素を使うため被曝を伴いますが、使用量が少ないので腎機能に左右されることはありません。また副作用はほとんどなく、仮に副作用が発症する場合も嘔気嘔吐など軽症です。

PET/CTの大半は18F-FDGを用いる検査で、がんと診断された場合の病期診断(リンパ節転移や他臓器転移の有無評価)、転移再発有無の診断、転移性腫瘍と診断されたものの原発がわからずそれを検索したい時

などに有用です。その他心臓サルコイドシス、難治性てんかん、大血管炎が保険適応となっています。

■PET/CT 検診について

希望者を対象として腫瘍マーカーと合わせたPET/CT検診を行っています。ご希望の方はPETセンター受付にお問い合わせください(Tel:088-880-2220)。

■メチオニンPET について

当センターでは自費診療としてメチオニンPET検査も行っています。メチオニンPETはアミノ酸代謝を見ることが出来る検査で、18F FDG-PET/CTでは評価が難しい脳の病変に有用です。脳腫瘍の悪性度、あるいは悪性腫瘍治療後の再発有無の鑑別にメチオニンPETは役立ちます。

核医学検査・治療のことでご心配なことがあればお気軽にPETセンター受付にご相談ください。

冬のイベント案内

●12月～3月●



附属病院クリスマスイルミネーション

12月5日(木)～26日(木)まで
附属病院一階タリーズ前の中庭にツリーを設置してイルミネーションを点灯



テレビ高知 おらんくの大学病院

12月28日(土) 16:30～17:00 総集編(第11話から第20話)

RKCラジオ「気になる健康ファミリドクター」

【放送】毎週月曜日 午前10:35～(10分間) ※放送内容は後日附属病院ホームページに掲載されます。
【再放送】毎週土曜日 午後5:50～(10分間)



- 1月6日(月) 災害救急について [災害・救急医療学講座/西山 謹吾]
- 1月13日(月) 中高年にみられる膝痛 [整形外科/阿漕 孝治]
- 1月20日(月) 脾臓の病気(慢性脾炎) [内科(消化器)/内田 一茂]
- 1月27日(月) 手術により聴こえを取りもどす [耳鼻咽喉科・頭頸部外科/小林 泰輔]
- 2月3日(月) 高齢者における嚥下(飲み込み)の障害 [耳鼻咽喉科・頭頸部外科/長尾 明日香]
- 2月10日(月) 前立腺がんの早期発見のために(PSA検診など) [泌尿器科/蘆田 真吾]
- 2月17日(月) がんの光線力学診断(膀胱がん、胃がんなどへの取り組み) [泌尿器科/井上 啓史]
- 2月24日(月) 妊婦と口の健康 [歯科口腔外科/笹部 衣里]
- 3月2日(月) 早期離床について [リハビリテーション部/山本 龍]
- 3月9日(月) 医師になるまで～医学部入学から専門医になるまでの道程～ [総合診療部/武内 世生]
- 3月16日(月) 医薬品副作用救済制度のしくみ [薬剤部/岡崎 雅史]
- 3月23日(月) 心臓血管外科について(仮) [心臓血管外科/三浦 友二郎]

[Vol.4]

2019年冬 12月20日 発行

おらんくの大学病院
[高知大学医学部附属病院]

ご意見、ご感想は
右記まで
お寄せください。

高知大学医学部附属病院 広報係
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮
Tel.088-880-2723
http://www.kochi-ms.ac.jp